



夏休みイベント「分度器で高さを測ろう！」

CONTENTS

1. 2024夏休み各種イベントを実施 2
2. UN-GGIM第14回会合への参加報告 4
3. 日本水準原点標庫の「水準原点」「大日本帝国」の扁額について 5
4. 「自然災害伝承碑 」 ウェブ地図「地理院地図」での公開数 7
5. 8月の報道発表・10月の主な行事予定 7

2024夏休み各種イベントを実施

「地図と測量の科学館」(茨城県つくば市)では、こどもから大人まで幅広い年齢層の方々に向け、楽しみながら地図と測量を学んでいただける夏休みイベントを実施しました。

○こども霞が関見学デー

8月7日と8日の2日間、国土交通本省において、「冒険!発見!国土交通省」をテーマに「国土交通省 こども霞が関見学デー」が開催されました。国土地理院は「まるごとニッポン!~地図で学ぼう、クイズとパズル!!~」と題し、「1/75万 日本列島余色立体地図」「3D分県パズル」「立体地図模型」など、楽しみながら学べるプログラムを出展しました。会場では余色立体地図の迫力に感嘆の声が上がり、立体地図模型の作り方を熱心に質問する小学生の姿もありました。

イベントを通じて、地図をより身近に感じていただけた様子で、両日とも盛況のうちに終了しました。



余色立体地図にびっくり!



3D分県パズルも大人気!

○職場体験学習

夏休み期間中の職場体験学習として、7月29日につくば市立学園の森義務教育学校から4名、8月5日につくば市立大穂中学校から5名の中学生が参加しました。

中学生たちは地理院地図や簡易的な高さの測定に興味深く体験していました。

職員との意見交換では、参加者から仕事に関することや、「国土地理院に就職するにはどうしたらいいですか」などの質問が寄せられました。



説明を受ける中学生

○「地図と測量の科学館」夏休みイベント

今年の夏休みイベントは、「地理院地図に触れてみよう!」「分度器で高さを測ろう!」「夏休み地図・測量相談コーナー」を実施・開設しました。

また、測量用航空機「くにかせ」の機内公開も予定しておりましたが、熱中症警戒アラートの発表を含む連日の気温上昇のため、来場者の安全を考慮し中止とせざるを得ませんでした。このため、代替イベントとして「日本列島一筆描き」を実施しました。

「地理院地図に触れてみよう!」は、7月23日及び8月20日に実施しました。国土地理院HPで公開している地理院地図の詳しい使い方について、タブレットを使って説明しました。

小学校低学年のこども達には少々難しい内容のようでしたが、参加者は熱心に聞き入り、興味深く

タブレットを操作していました。好きな場所の現在と昔の空中写真を見比べたり、筑波山を3D表示してみたり、面積の測定や断面図を表示する機能を操作し、「おもしろかった」「色別標高図を自分で作ることができた」「知らない機能がたくさんあった」などの感想が聞かれ、大変好評でした。



興味津々「地理院地図に触れてみよう！」

「分度器で高さを測ろう！」は7月24日及び8月21日に実施しました。このイベントは参加者が自分で組み立てた高さを測る道具（分度器を加工したもの）で対象物の高さを求めるものです。参加者は20m歩いた際の歩数で自分の平均歩幅を求め、道具につけたストローをのぞき込んで対象物の最高点（地図と測量の科学館の屋上）が45°に見える位置に立ち、そこから対象物までの距離を歩測して高さを求めました。

最後に正解を発表すると、「おいしい!」「ぜんぜん違った!」など、にぎやかな声が上がりました。

参加者からは、「うちに帰ってもやってみる」「夏休みの自由研究にいいかも」などの話も聞かれました。



一生懸命取り組んだ「分度器で高さを測ろう！」

「日本列島一筆描き」は7月23日、24日、8月20日及び21日に実施しました。

お手本の日本列島を見ながら、北海道、本州、四国、九州の4島をそれぞれ一筆で描いてもらい、コンピューターで採点しました。

親子で挑戦し点数を競い合ったり、小さいこどもが挑戦して思いがけない高得点に喜んだり、点数に納得できずに4回も挑戦する小学生がいたり、一様に楽しんでいただけたようでした。



一筆描き挑戦中！

「夏休み地図・測量に関する相談コーナー」は7月23日～25日、7月30日～8月1日及び8月20日～22日に開設しました。

熱心に質問し課題解決の参考とする小学生や、素朴な疑問、測量に関する多数の質問など幅広い相談がありました。



熱心に質問する中学生

「地図と測量の科学館」では、今後も様々なイベントを企画し、随時、ホームページなどでお知らせします。ぜひご来館ください。

「地図と測量の科学館」ページ

<https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/>

(総務部)

UN-GGIM第14回会合への参加報告

「地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UN-GGIM）」は、国連経済社会理事会（ECOSOC）の下に設置され、地理空間情報の整備と利活用を通じて地球規模の政策課題を解決するため、加盟国の間で広く議論、調整等を行っています。国土地理院は、2024年8月に国連本部（米・ニューヨーク）で開催された UN-GGIM 第14回会合に我が国代表として参加しました。

会合は、8月7日から9日に対面形式で開催されました。75の国・地域及び国際機関等から約350名の専門家が参加し、国土地理院からは、飯田洋基本図情報部長、宮原伐折羅地理地殻活動研究センター地理地殻活動総括研究官、菅井秀翔企画部国際課長補佐が出席しました。



議場の様子

会合では、SDGsや気候変動など、地球規模の課題解決への地理空間情報の貢献について、加盟国から活発な発言があり、日本からも次のような発言を行いました。

「地球規模の地理空間情報管理体制の強化」の議題では、UN-GGIM事務局体制の強化を歓迎する一方で、これまでの過程を振り返り、国連組織として透明性のある議論に基づいて活動を進めるよう求める発言を行いました。

「地球規模の測地基準座標系」の議題では、座標系の維持を支援するために、UN-GGIM測地小委員会や国連地球規模の測地連携拠点（UN-GGCE）が進める国連の活動を歓迎し、アジア太平洋地域の活動を主導する国として、日本も引き続きこれらの取組に貢献をしていくことを表明しました。

そのほかにも、UN-GGIMの地域委員会の一つである国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）の副会長国として、加盟国のさらなる貢献を呼びかけるとともに、防災作業部会の活動方針が明確となった

ことによる活動の活発化に期待を表明しました。



各議題への日本からの介入

また、8月5日、6日には、会合に先立ち、UN-GGIMの下に設置された作業部会等の組織が共同で各種のサイドイベントを開催し、これらに参加して個別の議題を集中して議論したほか、会議の合間に各国代表団と対話を行うなどして、今後の活動に必要な情報収集等を行いました。

本会合での会議文書等の情報は国連 Web ページで公開されており、関連ドキュメントや会議の録画を参照することが可能です。

<https://ggim.un.org/meetings/GGIM-committee/14th-Session/>

国土地理院は、引き続き UN-GGIM や UN-GGIM-AP に参加し、積極的に国際活動を推進していきます。

（企画部・基本図情報部・地理地殻活動研究センター）

日本水準原点標庫の「水準原点」と「大日本帝国」の扁額について

東京都千代田区の国会前庭（北庭）の憲政記念館近くに水準原点及び標庫（^{えんがい}）は設置されています。令和元年には国の重要文化財にも指定されています。

水準原点を守っているこの標庫は、明治 24（1891）年に造られた工部大学校造家学科（現東京大学建築学科）一期生の佐立七次郎（^{さたちしちじろう}）の設計による古典様式の記念碑的な建物です。佐立氏が設計した現存する最古の建築物となります。

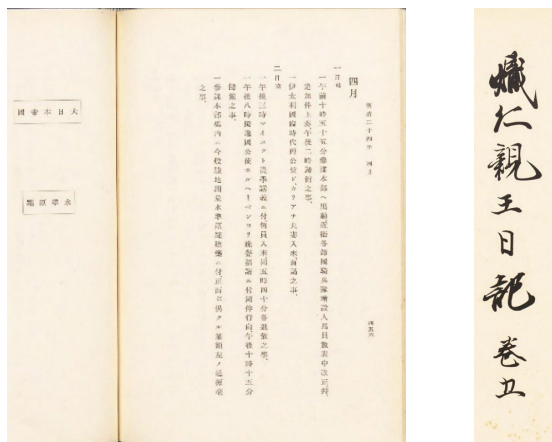
最近、標庫の頂部「大日本帝国」と扁額（建物の内外や門・鳥居などの高い位置に掲出される額）「水準原点」の揮毫者（毛筆で文字や絵を書いた人）が初代の参謀総長であった有栖川宮熾仁親王（^{へんがく}）であることが元国土地理院図書館司書菊田裕子氏（^{きこう}）（現獨協大学職員）（^{ありすがわのみやたるひと}）によって確認されましたので報告します。



水準原点が収められている標庫

菊田氏の調査で二つの記述が確認されました。

一つ目は、『熾仁親王日記 巻五』（有栖川宮熾仁／著，高松宮家，1936，p.456-457）の明治 24 年 4 月 2 日に「参謀本部構内二今般陸地測量水準原点建築二付、正面江掲クル篆額左ノ通揮毫之事、大日本帝國 水準原点」の記述です。

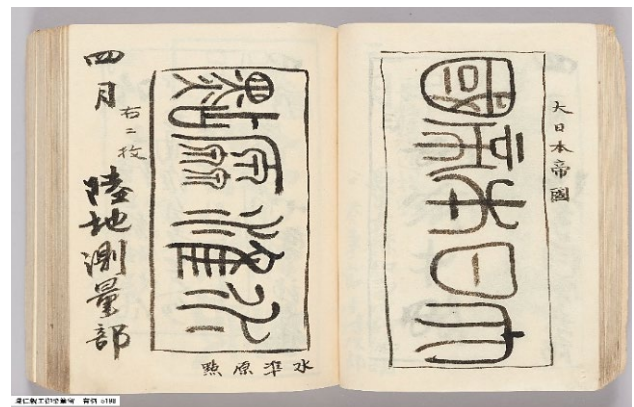


（有栖川宮熾仁／著『熾仁親王日記 巻五』，高松宮家，1936. 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1916209> コマ番号 242）

二つ目は、『熾仁親王御染筆留』（熾仁親王／著，嘉永 4 年－明治 27 年）に「大日本帝國 水準原点 右二枚 四月 陸地測量部」（明治 24 年 4 月のページ）の記述です。（宮内庁書陵部所蔵）

熾仁親王（天保 6（1835）年～明治 28（1895）年）は江戸時代から明治時代の日本の皇族であり、政治家、軍人、書家として活躍されました。書道・歌道にも精通していた熾仁親王に（^{せんびつ}）染筆を依頼する人が多く、『熾仁親王御染筆留』は熾仁親王が依頼

のたびに記録していったものです。



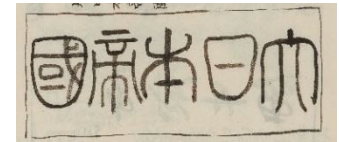
『熾仁親王御染筆留』（宮内庁書陵部所蔵）

その中には、^{おおあらい}大洗磯前神社の鳥居や、^{いそさき}厳島神社の鳥居に親王の揮毫された扁額についての記述もあり、現在も実際に見ることができます。

水準原点は、明治 24（1891）年 5 月から現在にわたり日本の標高の基準を担っているとともに、標庫は現存する都内最古の近代洋風建築となっています。そこに掲げられている扁額について貴重な文化遺産であることを多くの人に知っていただければ幸いです。



大鳥居の修復工事のため本殿で展示された扁額（右写真は背面）



『熾仁親王御染筆留』
(宮内庁書陵部所蔵)



『熾仁親王御染筆留』
(宮内庁書陵部所蔵)



有栖川宮熾仁親王

天保 6 年 (1835 年) 誕生

慶応 3 年 (1867 年) 大政奉還後の「王政復古の大号令」で新政府の三職の最高官職である総裁に就任

慶応 4 年 (1868 年) 戊辰戦争では東征大総督に就任し官軍を率いて転戦する。参謀は西郷隆盛。

明治 3 年 (1870 年) 兵部卿に就任

明治 9 年 (1876 年) 元老院議長

明治 10 年 (1877 年) 西南戦争では鹿児島県逆徒征討総督に就任

明治 10 年 (1877 年) 西南戦争中に赤十字社の前身である博愛社の設立認可に関与

明治 10 年 (1877 年) 陸軍大将に就任

明治 13 年 (1880 年) 左大臣に就任

明治 19 年 (1886 年) 参謀本部長に就任

明治 22 年 (1889 年) 初代参謀総長に就任

明治 24 年 (1891 年) 4 月 2 日に陸地測量部より水準原点標庫の揮毫依頼

明治 24 年 (1891 年) 5 月に日本水準原点 (標高 24,500 m) が竣工設置される

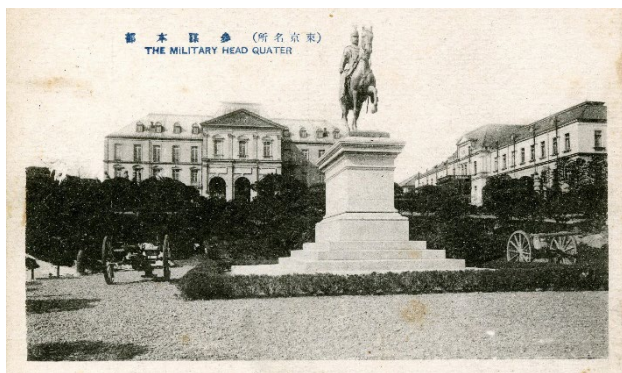
明治 27 年 (1894 年) 日清戦争において、参謀総長として広島大本営に移る

明治 28 年 (1895 年) 日清戦争中に病没

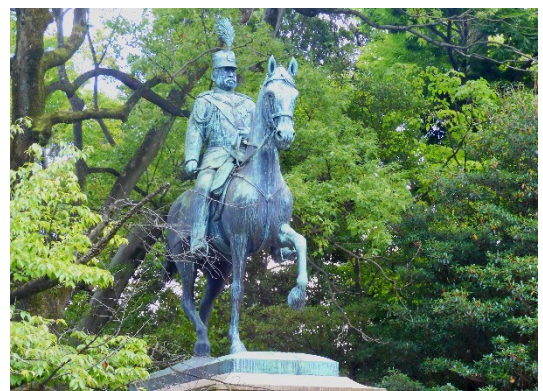
明治 36 年 (1903 年) 参謀本部 (陸地測量部) 正門前に熾仁親王の銅像が建立される (現在の国会議事堂前
にある憲政記念館の敷地内)。昭和 37 年 (1962 年) に有栖川宮記念公園へ移設。



国立国会図書館
次世代デジタルライブラリー
「熾仁親王日記 巻一」
親王肖像
<https://lab.ndl.go.jp/dl/book/1916148?page=8>



『(東京名所) 参謀本部』に写っている親王の銅像
(京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00029988>)



現在の有栖川記念公園内の銅像

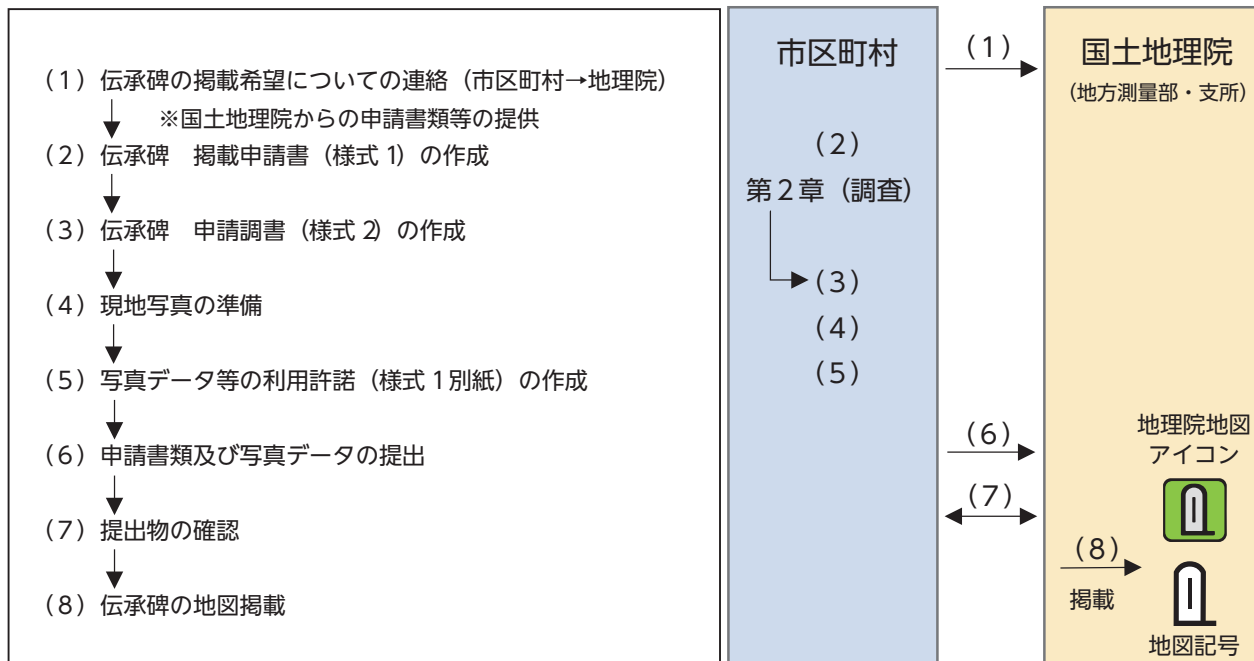
(総務部・測地部)

47	都道府県	635	市区町村	2183	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ (<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>) をご覧ください。

【市区町村の担当者の皆様へ】 自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版 (令和6年3月)」 (https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html) をご覧ください。

8月の報道発表

8日	令和6年7月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
27日	令和7年度 国土地理院関係予算概算要求について	企画部
30日	指名停止措置について	総務部

報道の内容は、国土地理院ホームページ> 2024年 報道発表資料一覧

(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2024.html>) をご覧ください。

10月の主な行事予定

10/22~12/22	地図と測量の科学館 企画展「日本の新しい標高を知ろう！」
-------------	---------------------------------

国土地理院広報は、

国土地理院ホームページ> 広報誌> 国土地理院広報

(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>